

第17回 市民自治を考える懇話会 会議録要約版

日 時 平成20年1月31日(木)午後7時～9時

場 所 市役所南館 講堂

出席者 (委 員) 13名 (欠席21名)
(サポートスタッフ) 4名
(事務局) 4名

会議内容

グループ討議

2つのグループに分かれて、グループによる討議を行った。

Aグループ：自治会等の地縁型

Bグループ：NPOなどテーマ型

<主な内容と意見>

【Aグループ】

岸和田市と伊丹市のどちらの条例のタイプがよいのか。岸和田市は、細かいと思う。

事業者を市民に含めるのか。

自治会の加入率が60%程度、なぜ、100%にできないか。

自治会に加入するかしないかは、自主的なこと。

自治会に加入する費用が高い。

自治会にこだわらず、防災活動のような括りのほうが、参加しやすい。

自主防災組織は、自治会とは別のものとして、組織化され、参加者が多い。

自治会に規約はあるのか。

目的がはっきりしていたら、人は集まる。

近所同士が助け合うは、当たり前である。

うまくいっている場合、1つは金、1つは行政で解決できているが、それでいいのか。

みんなが行動して、問題を解決することが、市民自治である。

憲法、地方自治法は、間接民主主義を位置づけているが、直接民主主義は位置づけられていない。

外国人、若い人の参政権を保障するのか。

自治基本条例の意義とは。

審議会のあり方。

「協働」の定義

市民、行政のどちらかでも協働を働きかけてもよい。

自分が働く。

P T A 第七小 O B 会

南大和市 竹トンボづくり

後継者づくりが大切

条例をつくるだけでは、広がらない。

伊丹市は、考える会が、育てる会へ

地区同士の交流が必要である。

市民同士の交流が必要である。

わかりやすい情報提供が必要である。

出前講座も、地域にはいっていくべき。

講座は、「出たい人」ではなく、「出てほしい人」を推薦すべきである。

博物館への道を何とかできないか。

狭山池に、ボートを浮かべられないか。

狭山池の上流のゴミの掃除。

2 / 3、2つの小学校で、陶器山を清掃。去年は250人参加。

地域でまとまって動けば、影響が大きい。

文句ばかりでなく、ほめることも大切。

【Bグループ】

狭山の子もたちを守るシステム

登校時のボランティア、緑のジャンパー “守ろう子ども”

自ら、どこにも入らずにやっている人

市役所、区別に所属している人

警察に見守り隊

本当の理想 各家庭がみんなで、下校時に玄関前に何らかの形で出ること

順番が回わらなくても、自らボランティアをするべきだ。
共働きの母親は、大変。
組織 学校や地域でわけていっている。

行政はボランティアに頼っている？
例えば、マンションが共同で、掃除するとき、“共働き”は理由にならない。

安全、安心のために、市民全員目で、見守ることが大切。 いろいろな面で

あいさつの出来る子どもを育てていきたい。
地域で育てる。

あいさつのできない子ども
知らない人に声をかけられても喋ってはいけないというしつけ
先生にも、あいさつを出来ない子がいる。
怒られ慣れていないので、他人から怒られると何か変わることがある。

防犯ブザーが鳴っても、誰も反応したり、声をかけたりしない。

昔のように、近所とのつながりが無い。個々になっている。
地域の力が薄れている。

P T A（大阪狭山市 P T A 連絡協議会）
横のつながりやシステムが、成り立っていない。
公共的意識がなくなってきている。

タバコを吸っている学生 注意すべき

“命”の大切さ
年上の人を尊ぶ心
社会をつくっていくのは、個人個人だという意見

地域の人たちが、出会う、集まる場所をつくる必要がある

現状 子どもを 100% 守ることは、不可能だけれど、意識を芽生えさせていくことが大切。

昔は平和だった。

社会教育指導員 公民館での活動を考える。

子育て中でも、人との交流が出来る。
ほしい したいに変わってくる。

狭山ニュータウンができたから、今の場所に公民館がある。

「つながり」が大切

social 社会
福沢諭吉は、「人間交際」と訳した。

citizen 市民と訳した。

市場で働く民衆の意味

指定管理者 利用者に“楽”を与えている。
教育的つながりが、3年しかないというデメリット。

日高川町の美山地区の人々
鍵をしめたことのない生活
いろいろなつながりのあるところ

市の想い
テーマ別の1階建て百貨店型にしたい
別々のテーマを1つにまとまって
横のつながりをつくりたい。コラボレーション

団体同士のつながり 狭山池まつり

校区リーダーをつくったりして、子どもを守ったりしていく。
青少年指導員さん
組織がいろいろと分かれていく。増えてきている。
それぞれの思いで、できた団体が集まれば、人のつながりが強くなる。

そのことを行政などがするのではなく、市民から声をあげて、市を動かしていく。

大和市 モデル地域

「何とかしないといけない」

遠足 寄り道、道草 草がない。
通学路などに、冒険、物語が必要。
ごみ博で人気の羊のゴミ箱。

過保護と放任の差が激しい。
個人個人が閉じこもっている。

子どもの逃げ場所をつくる？
悩みを心にもっている子が多い。

逃げる場所よりも、認めてあげる場所。

先生が逃げている。

何か、自分の中のものを認めてもらえる。

教育委員会 サッカークラブ等をつくろうとしている。

いろんな責任が行政にきてしまう。

好きなものを守るために、各々で努力する。

【事務局】

- ・次回は、2月27日(水)に開催予定。